



URL <https://kanagawanet.org/>

●川崎市の事例

議会傍聴席の字幕表示

聴覚障害の方へ議場発言がモニター画面表示されます。

等々力陸上競技場 センサリールーム

川崎フロンターレがメインスタンドの一室に感覚過敏の子どもと家族のための部屋を設置。



●鎌倉市の事例

バリアフリー海水浴場

由比ヶ浜海岸では海水浴場開設に合わせ、2016年から鎌倉市と海の家事業者の組合が海の家へのスロープ設置や水陸両用車椅子の貸し出しを行うなど、バリアフリー化を進めてきました。2019年夏には組合が約2千万円をかけ、全ての海の家につながる木製の道「ボードウォーク」を設置。さらに県が歩道から砂浜までのスロープや海へと続くマットの設置などを行いました。2021年3月末には、県が1400万円の経費を負担し、国道134号の歩道と由比ヶ浜海岸の砂浜、公衆トイレをつなぐ常設スロープが完成。

腰越消防署の外周に幅広のスロープ

津波浸水想定地域にあるため、避難タワーとしての役割も含めて建設されました。建物外周に幅広のゆるやかなスロープを設置し、高齢者や車いす利用者も容易に屋上避難場所へ行けます。



●厚木市の事例

選挙の点字投票

選挙の投票場全カ所で点字投票対応可。(期日前も同様)

●海老名市の事例

みんなのトイレ設置

インクルーシブ遊具の設置は多くの自治体でも整備が進んでいます。以下は事例の一部です

●平塚市の事例

インクルーシブ遊具のある広場

総合公園内に市制90年事業の一つとしてインクルーシブ遊具のある広場ができます。障がいがある子どもない子ども皆が一緒に遊べる場所として、これまでの沢山の遊具のある広場の隣に新しい広場を作ります。行政は多くの団体と一年かけて意見交換を繰り返し、垣根などで工夫して飛び出しなどの心配を軽減するなどの配慮をします。完成は12月です。



●座間市の事例

ユニバーサルデザインのブランコ

芹沢公園(市内唯一の総合公園)にユニバーサルデザインのブランコ設置。

●大和市の事例

スロープで車椅子利用者にやさしい公園(引地台公園)



●横浜市の事例

小柴自然公園の整備。(公園におけるインクルーシブの考え方)

●藤沢市の事例

障害児も一緒に遊べるインクルーシブ公園が2カ所あります。

ユニバーサルデザインのまちづくり

土山由美子(ネット伊勢原市議)



外出先ではトイレやエレベーターの案内表示が頼りになりませんが、近年ピクトグラム(情報が伝わりやすく単純化された絵文字)化が進み、慣れない場所であっても安心して過ごすことができます。では、ユニバーサルデザインとは何か、また、その効果とは、と問われてもすぐに答えられる人はごく僅かでしょう。本来は「自動ドア」に代表されるように誰にとっても便利でありながら、当たり前になっただけで人の生活に馴染んでいくのが理想と考えます。福祉先進国のデンマークでは、10年以上前、地方の家庭からコペンハーゲンのホテル等のあらゆる場所で、デザインや機能性に優れた片手で補充できる同一のトイレトペーパーホルダーが使われていて、驚いたことがありません。誰でもどこにいても同じものを使う意味や姿勢に、共に生きる決意を感じる思いがしました。

「ユニバーサルデザイン」とは、全ての人が利用しやすい生活環境をデザインする考え方のことです。高齢者や障害のある人、子どもや子育て世代に優しい生活環境、全ての人のために使いやすいうる環境になります。 社先進国のデンマークでは、10年以上前、地方の家庭からコペンハーゲンのホテル等のあらゆる場所で、デザインや機能性に優れた片手で補充できる同一のトイレトペーパーホルダーが使われていて、驚いたことがありません。誰でもどこにいても同じものを使う意味や姿勢に、共に生きる決意を感じる思いがしました。 バリアフリーについては、2006年に策定された「バリアフリー法推進化要項」によって地方自治体においても「福祉のまちづくり条例」など、道路や歩行者空間・公共建築物・公園整備等が進みました。スロープや車椅子使用者用トイレが設置されたことで飛躍的に外出しやすくなりました。しかし、2020年に実施された文部科学省による全国の公立小中学校・特別支援校を対象とした学校施設におけるバリアフリー化の状況調査では、車椅子使用者用トイレの整備は65・2%、エレベーターはわずかに27・1%という実態です。また、15年以上が経ち、条例の形骸化や理解が進んでいない状態などを指摘する声も聞かれます。高齢者施設でありながら、トイレの手すり位置が不適切であったり、滑りやすい路面だったり、当事者の声が届いていない残念な事例も見受けられます。コロナ禍で開催が踏み切ったオリパラ東京大会では、障がいの有無にかかわらず、だれもが互いに尊重し合い支え合う「心のバリアフリー」が推進される契機となると期待されましたが、その効果は限定的でした。インクルーシブ教育が提唱され、災害時には避難所として活用される学校施設は、地域にとって重要性は増すばかりです。 バリアフリー化を進めるためにそれぞれの地域から必要性を訴える声を挙げ、整備を迅速にしていくことが求められます。県内にあるユニバーサルな取り組み事例を自分の自治体にも取り入れ、だれにも優しいまちづくりを進めます。

●伊勢原市の事例

ピクトグラム

伊勢原市役所内の案内表示



障害者・妊産婦用駐車場

伊勢原市役所駐車場。車いす利用者だけでなく妊産婦など車両の乗降が困難な人が利用するための間隔の広い駐車スペース

